

明司市明司字淡軒ニ着地ノ一

大改商社株式會社

明司支店長

山下正樹

陸軍大匠 東條英機殿

本組明細

一、馬力 四七一馬力

一、乘組員數 上級取員

英國人 二名

諾威人 一名

丁株人 一名

白系露人 一名

中華民國人 一名

日本人 二名

普通取員

中華民國人四三和

印波人一和

合計 五二和

一、津又見派ニ至ル迄ノ航路

初古屋派發土伏沖、豐後水道ヲ經テ津又見

派ニ至ル緣矣

11050  
1110

第六三號



執行指定



決裁指定



保存期限

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍病院ニ於テ該病ニ因リ死亡  
 口、昭和十二年七月三日滿洲國濱江省綏芬河ニ於テ公務ニ從事中火傷ヲ受ケ同月七日掖河陸軍病院綏芬河分院ニ於テ該傷ニ因リ死亡

拾年保

陸軍

房官臣大		課局務主		大臣 委	件名 航空許可ニ関スル件	番受 壹第五〇四二號	政務次官 回付 決裁 後一連帶 課名	參與官 航空	起元應(課)名 朝日新聞社	執行(決裁)後 回覽課名
了結	領受	出提	領受							
昭和 年 十月 三日	昭和 年 十月 三日	昭和十五年十月二十五日	昭和十五年十月十一日	局長 主務	政務 次官	參與官	書記官	審察 筆記者		
(裁決)行決 覽回後		帶連		局長	高級 副官	參與官	書記官	審察 筆記者		
局長		局長		局長	高級 副官	參與官	書記官	審察 筆記者		
局長		局長		局長	高級 副官	參與官	書記官	審察 筆記者		

陸普 副官ヨリ出願人へ通牒(魏野亮兵令後電)

十月十一日附出願首題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行規則第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

陸普第七五四九號 昭和五年十月二十七日

第六六六號 許可證

東京市麹町區有樂町二丁目三番地

朝日新聞社

一、行 爲 新聞原稿空輸ノ爲、航空

一、場所(區域) 東京—福岡—蔚山—京城—新義州—奉天

一、本證 有效 自昭和十五年十月二十七日 至昭和十六年二月二十八日

一、條 件 1. 要塞地帯及陸軍輸送港域ノ上空、航空ヲ禁ス

2. 飛艇航空ニ於テハ寫真機、双眼鏡等ノ使用ヲ禁ス

3. 必要ニ應ジ陸軍官憲ヲシテ所要ノ検査ヲ爲サ

シメ又ハ條件ヲ変更シ若ハ本航空ヲ中止セシムコトアリ



海軍軍務司長官ヨリ出願人ニ對シテ...

昭和五年十月二十七日...

陸普第七五四九號...

昭和五年十月二十七日...

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍病院ニ於テ該病ニ因リ死亡

ロ、昭和十二年七月三日滿洲國濱江省綏芬河ニ於テ公務ニ從事中火傷ヲ受ケ同月七日掖可陸軍病院妥芬可分院ニ於テ該傷ニ因リ死亡

### 陸普

副官ヨリ關東、朝鮮、東部、中部、西部各軍參謀長、陸軍運輸部長、由良、豊後、下関、壹岐、對馬、鎮海灣各要塞司令官へ通牒

首題ノ件ニ関シ別紙甲號ノ願出ニ對シ乙號ノ通許可セラレタルニ付依令通牒ス

陸普第七五四九號

昭和五年十月二十七日

陸軍

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍病院ニ於テ該病ニ因リ死亡

ロ、昭和十二年七月三日滿洲國濱江省綏芬河ニ於テ公務ニ從事中火傷ヲ受ケ同月七日掖河陸軍病院綏芬河分院ニ於テ該傷ニ因リ死亡

別紙甲號

航空許可申請書

昭和十五年十月十一日

京都市麩町區有樂町二丁目三番地

朝日新聞社

社長 村山 長 譽

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

左記ノ通航航空致陸軍機保護法第三條ニヨリ此段許可申請候也

記

一、目的 新聞寫真原稿空輸ノタメ

二、出發地、出發日時

(1) 出發地 東京飛行場

(2) 航空期間 御許可ノ日ヨリ昭和十六年二月末日迄(遞信大臣許可期間)

(ハ) 出發日時

不定、但シ其ノ都度豫メ通報ス

三、着陸地

福岡ー朝鮮經由ー新義州ー奉天ー新京(定期航空路ニ依ル)

四、到着地

ハルビン

備考 復陸ハ往陸ノ逆順トス

五、航空機ノ種類、機體ノ型式

(イ) セヴァスキー式二PAB三型機

一機

(ロ) 三菱式鷹型機

一機

(ハ) 三菱式鷹型機

二機

(ニ) 三菱式M020型

一機

六、發動機ノ型式及馬力

(イ) ライト・サイクロンG三B型八百二十馬力(セヴァスキー式)

(近ク塔航證明書ヲ下附サレタル場合使用ス)



イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍病院ニ於テ該病ニ因リ死亡

ロ、昭和十二年七月三日滿洲國濱江省綏芬河ニ於テ公務ニ從事中火傷ヲ受ケ同月七日掖河陸軍病院綏芬河分院ニ於テ該傷ニ因リ死亡

(イ) 壽式三型五百五十馬力二基 (鷹)

(ロ) 同 一基 (雁型機)

(ハ) 「ハ五」八百馬力 二基 (MO二〇型)

七、國籍記號登録記號

(イ) セヴァスキ式 J I B A A H

(ロ) 三菱式機型 J I B A A E

(ハ) 三菱式雁型 (朝風) J I B A A L

(ニ) 三菱式MO二〇型 J I B A A P (墾航證明書下附サレタル場合配當サレル豫定)

八、乗員ノ住所、氏名並ニ技術證明書及免狀ノ種類

東京市麴田區有樂町二ノ三 朝日新聞東京本社航空部内

一等飛行機操縦士二等航空士 新野 百三郎

一等飛行機操縦士一等航空士 飯沼 正明

一等飛行機操縦士二等航空士 川崎 一

同 中島 忠英

同 同 同 航空機機士 同 同 同 同 航空機機士無線通信士 航空機機士無線通信士 同 同 同

長友重光 小俣裕輝 池田和夫 塚越賢爾 島崎清 永田紀芳 近藤通 中具憲三 堀江正春 土屋貞次 仙野利男 富澤進 木島幸司

航空機機士無線通信士

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍病院ニ於テ該病ニ因リ死亡

ロ、昭和十二年七月三日滿洲國濱江省綏芬河ニ於テ公務ニ從事中火傷ヲ受ケ同月七日掖河陸軍病院綏芬河分院ニ於テ該傷ニ因リ死亡

航空機操士

川村次郎

同

早川敏男

無線通信士

田丸幸三

同

川島元彦

同

山本金志

(以上)

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍病院ニ於テ該病ニ因リ死亡

ロ、昭和十二年七月三日滿洲國濱江省綏芬河ニ於テ公務ニ從事中火傷ヲ受ケ同月七日掖河陸軍病院綏芬河分院ニ於テ該傷ニ因リ死亡

空監第一四五二號

昭和十三年十月十一日

航空局長官

朝日新聞社

社長 村山長 慶

日滿通信連絡飛行ニ關スル件

昭和十五年八月二十七日附テ以テ提出ニ係ル右件左記條件ノ下ニ本年十月一日ヨリ向フ六ヶ月間許可セラレタルニ付了知相成候

記

一、航空路ハ新蔡州一遼天一新京一大平庄一哈爾濱ヲ連ヌル線ニ依ルヘシ

但シ本溪湖、撫順各停車場ヲ中心トスル半徑六新及平戸停車場ヲ中心トスル半徑十三新以内ノ地域上空ノ飛行ヲ禁止ス

尙哈爾濱ト大平庄ト雙城ノ飛行高度ハ三百米ヲ超ユルコトヲ得ス  
ニ發着日時ニ付テハ豫メ奉天、新京、哈爾濱各航空所長宛届出ツヘ  
シ

三、税關検査ハ往復共奉天又ハ新京飛行場ニ於テ之ヲ受クヘシ  
之カ爲其ノ發着日時ニ付テハ豫メ奉天又ハ新京税關長ニ届出ツヘ  
シ

四、其ノ他ノ事項ニ關シテハ一般法規ヲ遵守スヘシ

別紙乙號

分可分分二於テ該第二人

許 可 證

東京市麹町區有樂町二丁目三番地

朝 日 新 聞 社

一、行 爲

一、場所(區域)

一、本證有效  
期 間

一、條 件

新聞原稿空輸ノ爲ノ航空

東京一福岡一蕨山一京坂一新藤州一奉天

自昭和十五年十月二十八日

至昭和十六年二月二十八日

1. 要塞地帯及陸軍輸送滞域ノ上空ノ航空ヲ禁ス

2. 本航空ニ於テハ寫眞機、双眼鏡等ノ使用ヲ禁ス

3. 必要ニ應シ陸軍官憲ヲシテ所要ノ検査ヲ爲サシメ又  
ハ條件ヲ變更シ若ハ本航空ヲ中止セシムルコトアリ

麹町憲警第二三三二號

意見書

昭和十五年十月十五日 麹町憲兵分隊長 平林茂樹

陸軍大臣 東條英機 殿

東京市麹町區有樂町二丁目三番地

朝日新聞社

社長 村山長學

麹町憲兵分隊長印

服部

右者別紙、通り軍機保護法施行規則第  
五條ニ基キ航空許可 方願出スルニ付許  
可可然キモノト思料ス





三、出發地、出發日時

(イ) 出發地 東京飛行場

(ロ) 航空期間 御許可ノ日ヨリ昭和十六年二月末日迄 (遞信大臣許可  
期間)

(ハ) 出發日時 不定、但シ其ノ都度豫メ通報ス

三、着陸地

福岡ー朝鮮經由ー新義州ー奉天ー新京 (定期航空路ニ依ル)

四、到着地

ハルビン

備考 復路ハ往路ノ逆順トス

五、航空機ノ種類、機體ノ型式

(イ) セヴァスキー式二P A B 三型機 一機

(ロ) 三菱式鵬型機

一機

(ハ) 三菱式雁型機

二機

(ニ) 三菱式 M C 二〇型

一機

(近ク堪航證明書ヲ下附サレタル  
場合使用ス)

六、發動機ノ型式及馬力

(イ) ライト・サイクロン G 三 B 型 八百二十馬力 (セヴァスキー式)

(ロ) 壽式三型五百五十馬力二基 (鵬)

(ハ) 同

一基 (雁型級)

(ニ) 「ハ五」八百馬力 二基 (M C 二〇型)

七、國籍記號登録記號

(イ) セヴァスキー式

J I B A A N

(ロ) 三菱式鵬型

J I B A A E

(一) 三菱式雁型 (朝風) J I B A A L

(二) 三菱式 M C 二〇型 J I B A A P ( 堪航證明書下附サレタル場合配當サレル豫定 )

八 乘員ノ住所、氏名並ニ技倆證明書及免狀ノ種類

東京市麴町區有樂町二ノ三 朝日新聞東京本社航空部内

一等飛行機操縦士二等航空士 新野 百三郎

一等飛行機操縦士一等航空士 飯沼 正明

一等飛行機操縦士二等航空士 川崎 一

同 中島 忠英

同 長友 重光

同 小俣 壽雄

同 池田 和夫

航機機關士無線通信士 塚越賢爾

航空機機關士無線通信士 島崎清

同 永田紀芳

同 近藤通

同 中島憲三

同 堀江正春

航空機機關士 土屋貞次

同 仙野利男

同 富澤進

同 木島幸司

同 川村次郎

同

早川敏男

無線通信士

田丸幸三

同

川島元彦

同

山本金志

(以上)

空監第一四五二號

昭和十五年十月十一日

航空局長官

朝日新聞社  
社長 村山長舉 殿

日滿通信連絡飛行ニ關スル件

昭和十五年八月二十七日附ヲ以テ願出ニ係ル右件左記條件ノ下  
ニ本年十月一日ヨリ向フ六ヶ月間許可セラレタルニ付了知相成  
度

記

一、航空路ハ新義州―奉天―新京―大平庄―哈爾濱ヲ連ヌル線ニ依  
ルヘシ  
但シ本溪湖、撫順各停車場ヲ中心トスル半徑六浬及平房停車

場ヲ中心トスル半經十三軒以內ノ地域上空ノ飛行ヲ禁止ス  
尙哈爾濱―大平庄―雙城ノ飛行高度ハ三百米ヲ超ユルコトヲ  
得ス

二、發着日時ニ付テハ豫メ奉天、新京、哈爾濱各航空所長宛届出  
ツヘシ

三、税關検査ハ往復共奉天又ハ新京飛行場ニ於テ之ヲ受クヘシ  
之カ爲其ノ發着日時ニ付テハ豫メ奉天又ハ新京税關長ニ届出  
ツヘシ

四、其ノ他ノ事項ニ關シテハ一般法規ヲ遵守スヘシ



朝日新聞社航空部次長

一等飛行機操縦士  
二等航空士

新野 百三郎

明治三十五年四月三十日生





朝日新聞社航空部員

一等飛行機操縦士  
一等航空士

飯沼正明

大正元年八月二日生



朝日新聞社航空部員  
一等飛行機操縦士  
二等航空士

川崎

大正三年五月七日生

一



朝日新聞社航空部員

一等飛行機操縦士  
二等航空士

中島 忠英

明治三十六年十一月廿二日生



朝日新聞社航空部員

一等飛行機操縦士  
二等航空士

長友重光

大正三年三月二十四日生



朝日新聞社航空部員

一等飛行機操縦士  
二等航空士

小 俣 壽 雄

大正三年九月四日生



朝日新聞社航空部員

一等飛行機操縦士  
二等航空士

池田和夫

明治四十五年一月三十一日生



朝日新聞社航空部員

航空機機關士  
兼無線通信士

塚越賢爾

明治三十三年十一月八日生



朝日新聞社航空部員

航空機操縦士  
兼無線通信士

島

崎

清

明治三十六年八月五日生





朝日新聞社航空部員  
航空機機關士  
兼無線通信士

水田紀芳

明治四十三年十一月十日生



朝日新聞社航空部員

航空機操關士  
兼無線通信士

近藤通

明治三十六年四月十九日生



朝日新聞社航空部員

航空機操士  
兼無線通信士

中島 應三

明治四十三年三月二十五日生



朝日新聞社航空部員

航空機機師士  
兼無線通信士

堀江正春

明治三十七年五月五日生



朝日新聞社航空部員  
航空機機關士

土屋貞次

明治三十七年十月九日生



朝日新聞社航空部員  
航空機操士

仙野利男

明治三十九年十二月八日生



朝日新聞社航空部員  
航空機操士

富澤進

明治四十四年二月五日生



朝日新聞社航空部員  
航空機操士

木島幸司

大正元年九月二十二日生





朝日新聞社航空部員  
航空機機師士

川 村 次 郎

大正九年十二月三日生



朝日新聞社航空部員

航空機機關士

早川敏男

大正十一年二月二十二日生



朝日新聞社航空部員

二級無線通信士

田丸幸三

明治三十六年二月十九日生



朝日新聞社航空部員  
二級無線通信士

川島元彦

明治四十二年九月十五日生

Doc 3159

" 3255.

Doc 1018. (original.  
chef Captain  
White)

" 2508 (ex 1244A)

" 3105 (Room 326)

" 3167 (ex 3445)

" 3217 (Miss Base).



朝日新聞社航空部員

三級無線通信士

山本金志

大正九年二月十三日生











副官ヨリ兵器本部、航空本部、西總務

部長、糧秣本廠長、被服本廠長、

衛生材料廠長、憲兵司令部本部長

及海軍省副官宛通牒

今般東亞經濟懇談會ノ招致ニ係ル首題ノ一行ハ別紙

要項ニ基キ民間工場ノ見學ヲ出願許可セラルニ付

(可然取計ヒ相成度)

注意、海軍へハ( )内ヲ「通牒ス」ニ改メ作ル

陸普第六六五五號

昭和十五年九月二十一日

副官ヨリ東亞經濟懇談會會長宛回答

九月十八日附貴會會長ヨリ陸軍次官宛書翰ニ係ル

首題ノ件別紙ノ通許可セラル夫々關係ノ向ハ通報

致シ置キタルニ付所承致相成度及回答候也

陸普第六六五五號

昭和十五年九月二十一日



イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍病院ニ於テ該病ニ因リ死亡

ロ、昭和十二年七月三日滿洲國濱江省綏芬河ニ於テ公務ニ從事中火傷ヲ受ケ同月七日掖河陸軍病院綏芬河分院ニ於テ該傷ニ因リ死亡

別紙

北中支第一回經濟視察團見學要項

一日程

見學月日	曜	時刻	見學場所
九月二十五日	水	午前十時ヨリ 約一時間半	東京芝浦電氣株式會社マツダ支社 川崎工場
同	同	午後一時ヨリ 約二時間	明治製菓株式會社 川崎工場
九月二十六日	木	午前十時ヨリ 約一時間半	日産自動車株式會社 鶴見工場
九月二十七日	金	午前十時ヨリ 約一時間半	三菱重工業株式會社 横濱船渠
同	同	午後一時ヨリ 約一時間	旭硝子株式會社 鶴見工場
十月一日	火	午前十時ヨリ 約一時間半	名古屋製陶株式會社 鳴海工場
同	同	午後一時ヨリ 約一時間	日本車輛製造株式會社 鳴海工場

十月五日	十月六日	同	十月十日(華中班)	十月十二日(華北班)
土	日	同	木	土
午後一時ヨリ 約二時間	午前十時ヨリ 約一時間半	午後一時ヨリ 約一時間半	午前十時ヨリ 約一時間半	午後一時ヨリ 約二時間
鐘淵紡績株式會社 淀川工場	住友金屬工業株式會社製鋼部 大阪工場	武田長兵衛商店 大阪工場	日本製鐵株式會社 八幡製鐵所	

二見學人名

華中 班

華中都市公共汽車公司董事長

楊

效

會

中華輪船公司常務董事

黃

溥

中華輪船公司工專科長

吳

潤

蚌埠總商會副會長 張近愚

華興商業銀行理事 戴克諧

華中水產公司董事 何士童

淮南炭礦社長 蘆耀

淮南炭礦秘書長 卜立夫

計 八 名

華北班

天津新生銀行經理 焦世卿

北京商務會顧問、日華商工協會董事 馬登洲

京津兩市商務會協會秘書長 朱厚叔

保定商務會董事 薛蓮舫

北京實報社長河南省駐京連絡處主任

胡

通

海

唐山市商務會常務董事

張

伯

元

計 外

八 二

名 名

東亞經濟懇談會

陸軍省 第四五回

昭和十五年九月十八日

陸軍省 大官 後官 15.9.17

陸軍省 軍務課 15.9.18

陸軍次官 阿南惟幾閣下

社団法人 東亞經濟懇談會 會長 男爵 郷 誠會 之

第一回訪日經濟視察團ノ産業視察許可申請ノ件

拜啓 陳者今般本會ニ於テ北支那及中支那ヨリ訪日經濟視察團ヲ招致左記視察要項ニ基キ現下ノ我國産業ノ實相ヲ具ニ視察セシメ正確ナル認識ト理解トヲ與ヘ日華提携ノ一助ニ資セント存シ居リ候  
就テハ何卒格別ノ御詮議ヲ以テ右工場見學御許可相成度此段及御願候

敬 具

東亞經濟懇談會 會長 郷 誠會



東亞經濟懇談會

工場觀察要項

一、觀察日時、場所

- ◎ 九月二十五日 午前十時ヨリ約二時間  
東京芝浦電氣株式會社 川崎工場
- ◎ 九月二十五日 午後一時ヨリ約三時間  
明治製菓株式會社 川崎工場
- ◎ 九月二十六日 午前十時ヨリ約二時間  
日産自動車株式會社 鶴見工場
- ◎ 九月二十七日 午前十時ヨリ約二時間  
三菱重工業株式會社 横濱船渠
- ◎ 九月二十七日 午後一時ヨリ約三時間  
旭硝子株式會社 鶴見工場
- ◎ 十月一日 午前十時ヨリ約二時間  
名古屋製陶株式會社 鳴海工場

東亞經濟懇談會

◎十月一日	午後一時ヨリ約三時間	日本車輛製造株式會社	鳴海工場
◎十月五日	午後一時ヨリ約三時間	鐘淵紡績株式會社	淀川工場
◎十月六日	午前十時ヨリ約二時間	住友金屬工業株式會社	
◎十月六日	午後一時ヨリ約三時間	武田長兵衛商店	大阪工場
◎十月十日	午前十時ヨリ約二時間		(華中班)
◎十月十一日	午後一時ヨリ約三時間		(華北班)
◎十月十二日	午後一時ヨリ約三時間	日本製鐵株式會社	八幡製鐵所
一、視察者人員			
華中班	八名		
華北班	八名		
計	十六名	日本職員	名

東亞經濟懇談會

第一回訪日經濟視察團

華中		班		第一回訪日經濟視察團	
姓名	年齡	職業	住所	姓名	年齡
楊效會	三七	華中都市公共汽車公司董事長	東體育會路七〇號	楊效會	三七
黃溥	三八	中華輪船公司常務董事	法租界外灘九號	黃溥	三八
吳潤	三四	中華輪船公司工專科長	同上	吳潤	三四
張近愚	四六	蚌埠總商會副會長	蚌埠總商會	張近愚	四六
戴克諧	四九	華興商業銀行理事	百老匯路六五號	戴克諧	四九
何士童	六五	華中水產公司董事	麥克利克路三五號	何士童	六五
蘆燾		淮南炭礦社長		蘆燾	
卜立夫		淮南炭礦秘書長		卜立夫	

東亞經濟懇談會

華北班		姓名	年齡	職業	住所
焦世卿	五三	天津新生銀行經理	天津		
馬登洲	四二	北京商務會顧問、日華商工協會監事	北京		
朱厚叔	四〇	京津兩市商務會協會秘書長	北京		
薛運舫	五九	保定商務會董事	保定		
胡通海	四〇	北京實報社長河南省駐京連絡處主任	北京		
張伯元	四七	唐山市商務會常務董事	唐山		

外二名ノ姓名職業等ハ追テ御通知申上可ク候

（Vertical text on the right margin, partially illegible）

陸軍次官阿南惟幾閣下

社団法人 東亞經濟懇談會

會長 男爵 郷 誠之助

東京市麹町區霞ヶ關三ノ一(舊貴族院内)  
電話銀座(57)六七三七・六七三八番

陸軍航空部  
經由庶第七四九號  
昭和十五年八月廿一日

マツダ 一〇二號

昭和十五年九月二十八日

東京監査  
瓶  
昭和十五年十月二日  
官督委任組

陸軍省  
15.10.12  
236  
軍務課

航空本部  
15.10.3.  
受付

9.25

卷 四五四 一 瑞英



東京市京橋區銀座西五丁目二番地一  
東京芝浦電氣株式會社  
取締役副社長 津 守 豐

治



陸軍大臣 東條 英機 殿

北中支第一回經濟視察團弊社工場見學ノ件

昭和十五年九月二十一日附陸普第六六五五號ヲ以テ御許可相成候北中支  
第一回經濟視察團弊社工場見學ノ件別紙ノ通り御報告申上候間御査閱被  
成下度候

卷 4541

# 外國人(武甯)工場見學報告

昭和十五年九月二十八日

東京芝浦電氣株式會社

マツダ支社

國籍

中華民國人

經歷

無世郷 天津新生銀號經理

氏名

華北班  
華中班

無世郷  
盧 燾

外九名  
外六名

概要

外諸公司董事及マ諸商會會長

見學月日及  
見學工場名

昭和十五年九月二十五日午前十時來社午後零時四十分退社  
テレビジョン研究室・硝子工場・電球工場以上機密物件製作  
場ニ關係無シ

見學ノ目的

視察

体格及外觀  
上ノ特徴

一行ノ恰幅勝レ居ル外ニハ外觀上ノ特徴ヲ認メズ

特有人技能  
及性格ノ概要

特有人技能ノ程度ハ不明  
性格 溫和

軍事能力ノ 程度及將來 ノ豫想	見學中ニ於 ケル舉動並 一般ノ景況等	日本語修得 ノ程度及對 日感情	其ノ他參考 トナルヘキ 事項
認メズ 對日ノ好意ハ不即	一行ノ中數名ハ日本語ヲ解シ得タルモ挨拶其他ハ通譯ヲ介シテ 視察ノ態度ハ極メテ熱心ニシテテレビジョンヲ驚異ノ眼ヲ以 テ眺メタル外各工場ノ完備、清潔ナルニ深キ感銘ヲ受ケタル 如シ	一行中數名ハ日本語ヲ解シ得タルモ挨拶其他ハ通譯ヲ介シテ 對日感情ハ非常ニ良好ナルヲ認ム	社団法人東亞經濟懇談會ノ招致ニテ現下産業日本ノ實相ヲ具 ニシテ同會ノ幹旋ニ依リ弊社工場ヲ視察シタルナリ 尙同會ヨリ指導員トシテ河村俊藏氏外三名同行セリ

昭和十五年六月二十八日



八、昭和十二年九月二十日支那河北省固安縣楊村附近永定河畔ニ於テ連絡勤務中河中ニ  
 轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認（又ハ……生  
 死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定。認定ノ根據トナルヘキ）  
 一、周嬰臣正首、可々部長、己ハ……

昭和十二年九月

マツダ陸第一〇二號

昭和十五年九月二十八日

昭和十五年十月九日  
 官督監任組

陸軍大臣 東條 英 澄 殿



東京市東區銀座四丁目二番地一  
 東京電氣株式會社  
 取締役 津 守 豊 治



航空本部  
 13.10.3.  
 受付

北中支第一回經濟觀察團弊社工場見學ノ件

昭和十五年九月二十一日附陸普第六六五五號ヲ以テ御許可相成候北中支  
 第一回經濟觀察團弊社工場見學ノ件別紙ノ通り御報告申上候間御査閱被  
 成下度候

# 外國人(武甯)工場見學報告

昭和十五年九月二十八日  
東京芝浦電氣株式會社  
▼ ツダ支社

國籍 中華民國人		氏名	華北班 華中班	焦世燾 盧燾	外九名 外六名	
		經歷	焦世燾 天津新生銀號經理 盧燾 淮南煤礦公司董事長 外附公司董事及ビ附商會會長			
見學月日及 見學工場名	見學ノ目的	體格及外觀 上ノ特徴	特有ノ技能 及性格ノ概要	昭和十五年九月二十五日午前十時來社午後零時四十分退社 テレビジョン研究室・硝子工場・電球工場以上機密物件製作 場ニ關係無シ		
體格及外觀 上ノ特徴			一行ノ怡暢勝レ居ル外ニハ外觀上ノ特徴ヲ認メズ			
特有ノ技能 及性格ノ概要			特有ノ技能ノ程度ハ不明 性 格 溫 和			

軍事能力ノ 程度及將來 ノ豫想	見學中ニ於 ケル舉動並 一般ノ景況等	日本語修得 ノ程度及對 日感情	其ノ他參考 トナルヘキ 事項
認メズ	觀察ノ態度ハ極メテ熱心ニシテテレビジョンヲ驚異ノ眼ヲ以 テ眺メタル外各工場ノ完備、清潔ナルニ深キ感銘ヲ受ケタル 如シ	一行中數名ハ日本語ヲ解シ得タルモ挨拶其他ハ通譯ヲ介シテ 行フ 對日感情ハ非常ニ良好ナルヲ認ム	社団法人東亞經濟懇談會ノ招致ニテ現下産業日本ノ實相ヲ具 ニ觀察セシメ正確ナル認識ト理解ヲ與ヘン爲メ來朝セルモノ ニシテ同會ノ幹旋ニ依リ弊社工場ヲ觀察シタルナリ 尙同會ヨリ指導員トシテ河村俊藏氏外三名同行セリ

昭和十二年九月二十日支那河北省固安縣楊村附近永定河畔ニ於テ連絡勤務中河中ニ轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認（又ハ………生死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定事項ヲ詳記スルコト）

陸軍大臣 東條英機 殿

マツダ陸第一〇二號

昭和十二年九月二十日  
陸軍大臣 東條英機 殿  
兵器本部 經由

昭和十五年九月二十八日  
兵器本部 經由

陸軍大臣 東條英機 殿

東京市京橋區銀座西五丁目二番地一  
東京芝浦電氣株式會社  
取締役副社長 津守豐治

陸軍	昭和十五年九月五日
兵器本部	經由第五五三號

北中支第一回經濟視察團弊社工場見學ノ件

昭和十五年九月二十一日附陸普第六六五五號ヲ以テ御許可相成候北中支第一回經濟視察團弊社工場見學ノ件別紙ノ通り御報告申上候間御査閱被成下度候

# 外國人(武甯)工場見學報告

昭和十五年九月二十八日

東京芝浦電氣株式會社

支社

		國籍		中華民國人	
		氏名		華北班 焦世燾 外九名 華中班 盧燾 外六名	
		見學月日及見學工場名		昭和十五年九月二十五日午前十時來社午後零時四十分退社 テレビジョン研究室・硝子工場・電球工場以上機密物件製作場ニ關係無シ	
		見學ノ目的		視察	
		体格及外觀上ノ特徴		一行ノ恰幅勝レ居ル外ニハ外觀上ノ特徴ヲ認メズ	
特有ノ技能及性格ノ概要		特有ノ技能ノ程度ハ不明 性格 溫和			

軍事能力ノ 程度及將來 ノ豫想	見學中ニ於 ケル舉動並 一般ノ景況等	日本語修得 ノ程度及對 日感情	其ノ他參考 トナルヘキ 事項
認メズ	視察ノ態度ハ極メテ熱心ニシテテレビジョンヲ驚異ノ眼ヲ以テ眺メタル外各工場ノ完備、清潔ナルニ深キ感銘ヲ受ケタル如シ	一行中數名ハ日本語ヲ解シ得タルモ挨拶其他ハ通譯ヲ介シテ行フ 對日感情ハ非常ニ良好ナルヲ認ム	社団法人東亞經濟懇談會ノ招致ニテ現下産業日本ノ實相ヲ具ニ視察セシメ正確ナル認識ト理解ヲ與ヘン爲メ來朝セルモノニシテ同會ノ幹旋ニ依リ弊社工場ヲ視察シタルナリ 尙同會ヨリ指導員トシテ河村俊藏氏外三名同行セリ

二十八年

轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認(又ハ……生  
死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定(認定ノ根據トナルヘキ)  
事項ヲ詳記スルコト)

一、調製主任者ハ何々部隊長ト記スルコト  
「可憐」可憐隊長可某一等ト記スルコト

指定官經由  
兵器本部  
日產自動車株式會社  
電話 〇七六  
陸軍省  
15.10.16  
前官

兵器本部經由  
昭和十五年十月

陸軍大臣 東條英機 殿

陸軍大臣 東條英機 殿



日產自動車株式會社  
村上正輔



北中支第一回經濟視察團當社工場見學ニ關スル件報告

昭和十五年九月二十一日附陸普第六、六五五號ヲ以テ御許可相成  
候首題ノ件左記ノ通り及御報告候也

記

一、參觀者氏名 淮南煤礦公司董事長 盧 耀 外十五名

氏名別紙ノ通り

二、參觀日時 昭和十五年九月二十六日 自午前十時 至午后一時

三、參觀工場名 車体工場、塗裝工場、工具工場、プレス工場、鍛冶工場

八、昭和十二年九月二十日支那河北省固安縣楊村附近永定河畔ニ於テ連絡勤務中河中ニ  
 轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認(又ハ………生  
 死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定認定ノ根據トナルヘキ事項ヲ詳記スルコト)

一、調製主任者ハ何々部隊長ト記スルコトトク「何兵第何聯隊長何某」等ト記スルコト、

日産自動車株式會社

電話神奈川④代表 一九三一〇二五三一〇  
 二六三一〇二五三一〇  
 二九三一〇二五三一〇

熱處理工場、機關第一工場、車軸第一工場、齒車工場

部品第二工場、部品第一工場、組立工場、鑄造工場

四、參觀目的 日本ニ於ケル自動車工業認識ノタメ

五、挨拶 午前十時當社着直ニ休憩室ニ案内當社村上社長ノ挨拶アリ

御 挨拶

私ハ當會社ノ社長村上正輔デ御座居マス。一言御挨拶ヲ申上ルコトヲ光榮ト存ジマス。

獲ニ貴國ニ於テ新シキ中華民國々民政府ガ樹立セラレ、以來我邦ノ善隣トシテ着々東亞新秩序建設ニ協力邁進セラレツ、アリマス事ハ洵ニ御同慶ニ存ジマス。皆様ニハ此度我國經濟實情御視察ノタメ遠路懸々御來朝下サイマシテ我國ニ對スル認識ト理解トヲ深メテ戴キ以テ東亞ノ經濟建設ニ一段ト御協力願フコトハ洵ニ喜ビニ堪ヘナイ次第デアリマス。



八、昭和十二年九月二十日支那河北省固安縣楊村附近永定河畔ニ於テ連絡勤務中河中ニ轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認(又ハ………生  
死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定認定ノ根據トナルヘキ事項ヲ詳記スルコト)

一、調製主任者ハ何々部隊長ト記スルコトナク「何兵第何聯隊長何某」等ト記スルコト

日産自動車株式會社

電話神奈川(代表)一九三二(五)二五三一(四)  
二六三二(五)二九三二(五)

本日ハ皆様ノ非常ニ御多忙ニ居ラセラレル中ヲ特ニ當社ニ御來駕ノ榮ヲ賜ハリ洵ニ感謝感激ニ堪ヘヌ次第デアリマシテ茲ニ會社ノ従業員一同ニ代リ厚ク御禮申上マス。此ノ上ハ一同協力一致日モ早ク歐米諸國ノ同業者ニ劣ラサル自動車ヲ製産致シ東洋ニ於ケル自動車供給者トシテ大イニ奉仕致ス覺悟デアリマスカラ親シク御視察ヲ願ヒ今後共何卒一層御支援賜ハラシテ切望致シテ止ミマセン。尙此ノ機會ニ於キマシテ當會社ノ沿革ト業務ノ概況ニ就テ簡單ニ申上度イト存ジマス。當會社ハ昭和八年十二月專ラ小型自動車**ダットサン**ノ製造ヲ目的トシテ資本金壹千萬圓ヲ以テ設立致シマシタ其後昭和十一年九月自動車製造事業法ニ基キ政府ノ助成會社トナルニ及ビ豫テヨリ研究中ノ**ニツサン**乗用車、**トラツク**、**バス**等大型自動車ノ製造ニ着手シ翌昭和十二年三月ニハ早クモ之等ヲ市場ニ出スニ至リマシタ爾來社業頓ニ緊張ヲ加ヘ一昨年春ニハ資本金ヲ參千萬圓ニ増資シ日ニ月ニ技術ノ向上ト業務ノ擴張ト

八、昭和十二年九月二十日支那河北省固安縣楊村附近永定河畔ニ於テ連絡勤務中河中ニ  
轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認(又ハ……生  
死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定認定ノ根據トナルヘキ事項ヲ詳記スルコト)

一、調製主任者ハ何々部隊長ト記スレコトナク「何兵第何聯隊長何某」等ト記スルコト  
日產自動車株式會社

電話神奈川①代表(一九三二)二五三二  
三六三一(五)二九三二(五)

ニ努力シツ、今日ニ至ツテ居リマス。

尙當會社デ製造致シマシタ各種ノ自動車ハ當會社自ラ之ヲ販賣セ  
ズ子會社タル日產自動車販賣株式會社ノ各地營業所ノ手ヲ通ジテ  
市場ニ賣出シテ居リマス。貴國ニ於テモ既ニ上海、北京ニ營業所  
ヲ南京、天津、張家口、漢口ニ出張所ヲ有シテ廣ク御引立ヲ頂イ  
テ居リマス。

又漸次増加スル従業員ノ素質ヲ向上善導セシムル爲メニ従業員養  
成所ヲ設立致シ一昨年春新校舍、寄宿舎、綜合運動場等完成シ現  
在少年工員壹千余名滿人百余名ヲ收容シ極メテ良好ナル成績ヲ收  
メツ、アリマス。

以上概要ヲ申上マシタガ何卒現場ニツキ充分御視察ヲ願ヒ御批判  
ヲ伺ハセテ戴キ度ク存ジマス。



ハ、昭和十二年九月二十日支那河北省固安縣楊村附近永定河畔ニ於テ連絡勤務中河中ニ  
 轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認(又ハ……生  
 死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定事項ヲ詳記スルコト)

一、調製主任者ハ何々部隊長ト記スルコトナク「何兵第何聯隊長何某」等ト記スルコト  
 日產自動車株式會社

電話神奈川④代表(一九三一)二五三一  
 (二六三一)二九三二  
 (二九三三)二九三三

ケラー マシンニ依ル型刻作業見學

4. プレス工場

説明「アレハ千五百噸ハミルトン プレッツサート申シマシテ

只今自動車ノ車枠ヲプレスシテ居リマス」

各種プレス作業ヲ非常ニ興深ク見學

問「プレスハ加熱シテ行ヒマスカ」

答「プレス加工ハ總テ常溫デ行ヒマス」

5. 鍛冶工場

騒音ノ爲説明ナシ

ユニバーサル ジョイント、ギヤ、ブランク等鍛造作業見

學

6. 熱處理工場

此處ハ熱處理工場デス。

電氣、重油ヲ使ツテ各種部分品ノ調質ヲ致シテ居リマス。

八、昭和十二年九月二十日支那河北省固安縣楊村附近永定河畔ニ於テ連絡勤務中河中ニ  
轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認(又ハ……生  
死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定事項ヲ詳記スルコト)

一、調製主任者ハ何々部隊長ト記スレコトトク「河兵第何聯隊長何某一等ト記スルコト、  
日産自動車株式會社

電話神奈川④代表(一九三二)二五三二(三)  
二六三二(五)二九三二(五)

問「アノ金網ノ中デハ何ヲヤツテ居リマスカ」

答「此處ハ各種工具ノ修理ヲシテ居リマス工具研磨室デス」

7. 機關第一、車軸第一、齒車、部品第二、部品第一工場

此處ハ各種部分品ノ製作ヲシテ居リマス部品工場デス。  
クラクシヤフト、グラインダー仕上作業、各種ギヤ、ホ  
ツピング、ギヤ、カツチング作業、ナツト、ボルトノ製作

狀況見學

問「此處ノ工場デハ殆ドベルトヲ使ツテ居リマセン様デスネ」  
答「ソウデス、御覽ノ通り各工作機械ガモーター直結ニナツ  
テ居リマシテ殆ドベルトヲ使ツテ居リマセン」

8. 組立工場

此處ハ組立工場デ御座イマス。  
此方ノコムベヤ、ラインデハ順序ヨク次々ニ組立作業ガ行  
ハレマシテ完全ナ自動車ニ組立テラレマス。

八、昭和十二年九月二十日支那河北省固安縣楊村附近永定河畔ニ於テ連絡勤務中河中ニ轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認(又ハ……生  
死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定認定ノ根據トナルヘキ事項ヲ詳記スルコト)

一、調製主任者ハ何々部隊長ト記スルコトナク「何兵第何聯隊長何某」等ト記スルコト  
日產自動車株式會社

電話神奈川(代表)一九三一(五)二五三一(五)  
二六三一(五)二九三一(五)

問「一日ニ何台位出來マスカ」

答「只今ハ申上ゲラレナイ事ニナツテ居リマス」

9. 鑄造工場

此處ハ鑄造工場テ御座イマス。

御覽ノ様ニ鑄造作業モローラー コムベヤーヲ使ツテ流れ作業

組織デ順序ヨク行ハレテ居リマス。

シリンダー ブロツク鑄造作業見學

以上ヲ以テ工場案内ヲ了リ小憩ノ後辭去ス

七、接待並案内者

日產自動車株式會社 社長 村上正輔

” ” 取締役 麻生剛

以上

八、昭和十二年九月二十日支那河北省固安縣楊村附近永定河畔ニ於テ連絡勤務中河中ニ轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認（又ハ……生  
死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定。認定ノ根據トナルヘキ事項ヲ詳記スルコト）

一、調製主任者ハ何々部隊長ト記スルコトナク「何兵第何聯隊長何某」等ト記スルコト  
日產自動車株式會社

電話神奈川④代表（一九三二）二五三一  
（二六三二）二五三一  
（二九三二）二五三一

華北班

北京商會顧問・日華商工協會監事

馬登洲

京津兩市商會協議會秘書長

朱厚叔

保定商會董事茶葉業同業公會會長

薛運舫

河南省駐京連絡處主任

胡通海

唐山市商會常務董事

張伯元

太原商會會長

鄭星五

華北政務委員會實業總署參事

金少偉

青島特別市台東鎮商會副會長

董品三

興亞院華北連絡部事務官

韓通淑

華中班

淮南煤礦公司董事長

盧耀

華興商業銀行理事

戴克諧

八、昭和十二年九月二十日支那河北省固安縣楊村附近永定河畔ニ於テ連絡勤務中河中ニ轉落生死不明ノ處同年十月一日西玉附近ニ於テ死体發見、溺死ト確認(又ハ……生  
死不明、死体ヲ發見セサルモ同所ニ於テ溺死ト認定。認定ノ根據トナルヘキ)  
一、調製主任者ハ何々部隊長ト記スルコトナク「何兵第何聯隊長何某」等ト記スルコト

電話神奈川④代表(一九三二)二五三一(四)  
(二六三一)二九三二(五)

日產自動車株式會社

華中都市公共汽車公司董事長	楊效會
中華輪船公司常務董事	黃溥
華中水產公司董事長	何士章
中華輪船公司棧埠部工事科長	吳潤
淮南煤礦公司秘書	卜立夫
附 添 人	
社團法人東亞經濟懇談會 參事	友添保
" " " "	渡邊正吾
" " " "	佐藤陸三
" " " "	加藤忠男
" " " "	北原益
日產自動車販賣株式會社宣傳課員	新井芳友



5. 除隊後ノ死亡者ニ在リテハ地方醫師ノ診斷證明書

一、死亡事由記載例 (但シ軍屬等ニ在リテハ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

1. 昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾賓ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾賓陸軍

兵器本部長經由別紙添付

兵器本部經由第 八八 號

名造甲第一、一七一號

外國人工場參觀狀況報告書提出ノ件

昭和十五年十月十九日

名古屋陸軍造兵廠長 白倉司馬太

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

九月二十一日附陸普第六六五五號通牒ニ依リ十月一日日本車輛製造株式會社ヲ中華民國人參觀セシニ付別紙ノ通狀況報告提出ス



軍

手付

吉 田 五 四 一

名古屋陸軍造兵廠經由  
陸軍兵器本部經由



名古屋陸軍造兵廠  
昭和十五年一月二日  
經由第九一號



中華民國人當工場參觀實施狀況ノ件報告

昭和十五年十月一日

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

昭和十五年九月二十一日陸普第六六五五號ヲ以テ御許可相受候首題ノ件左記  
ノ通實施セシメ候條此段及御報告候也



名古屋熱田區三本松町壹丁目壹番地  
日本車輛製造株式會社  
常務取締役 岩 垂 捨 三



左 記

一 參觀日時	昭和十五年十月一日午前十時到着十時卅分ヨリ十一時卅分迄工場見學午後零時卅分辭去
二 參觀者ノ國籍身分又ハ職業氏名	別紙
三 參觀セシ工場名	當社車輛工場
四 案内者若ハ説明者ノ身分又ハ職業氏名	引卒者 東亞經濟懇談會參事 友添保 工場案内者 當社技師 千種專次郎 技手補 佐野國平
五 立會者ノ身分又ハ職業氏名	陸軍憲兵隊築港憲兵分隊溝口軍曹 熱田警察署宮田特高課外事係員
六 參觀者ノ着眼及應答事項	着眼ニ付テハ特記スル事項ナシ 應答事項 應接室ニ於テ儀禮的挨拶ヲ交シタル外質問應答ナシ
七 感想	
八 其他參考事項	

參觀者、国籍、身分、職業、氏名

副長中軍氏、天津新生銀号經理、天津市商會常務委員

焦世卿

公

北京商會顧問、日華商工協會理事

馬登洲

公

京漢兩市商會協議會秘書長

朱厚叔

公

保定商會董事、茶葉業同業公會會長

薛運舫

公

河南省駐京連絡處主任

胡通海

公

唐山市商會常務董事

張伯元

公

唐山市茶業同業公會會長

鄭星五

公

太原商會會長

金少偉

華北政務委員會實業總署參事

黃岳三

青島特別市台東鎮商會副會長

日本車兩製造株式會社

青島雙興粉粉股份有限公司常務董事

興亞院東北建設部事務官

韓通淑

鐵南煤礦公司董事長

盧耀

副團長  
華興商業銀行理事

戴克諧

華中都市公共汽車公司董事

楊效曾

中華輪船公司常務董事

黃壽

華北水產公司董事

何六章

中華輪船公司機務部工專科長

吳須

鐵南煤礦公司秘書

卜文夫

以上

5. 除隊後ノ死亡者ニ在リテハ地方醫師ノ診斷證明書

一、死亡事由記載例 (但シ軍屬等ニ在リテハ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由)

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾賓ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾賓陸軍

兵器本部長經由  
別紙添付

兵器本部 經由第八五號

昭和十二年十月二十日

名造甲第一、一七〇號

外國人工場參觀狀況報告書提出ノ件

昭和十五年十月十九日

名古屋陸軍造兵廠長 白倉司馬太

陸軍大臣 東條英機 殿

九月二十七日附陸普第六六五五號通牒ニ依リ十月十五日日本特殊  
陶業株式會社及日本車輛製造株式會社ヲ中華民國人參觀セシニ付  
別紙ノ通狀況報告提出ス



了

4541

5. 除隊後ノ死亡者ニ在リテハ地方醫師ノ診斷證明書

一、死亡事由記載例 (但シ軍屬等ニ在リテハ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍

表

四三二  
日特第貳六七貳號  
名古屋陸軍造兵廠經由

名古屋陸軍造兵廠	昭和十五年十月七日	工場監督
經由第 五三號		官認印
		會社又ハ工場代表者認印

支那人當工場參觀實施狀況ノ件報告書

昭和拾五年拾月拾五日

名古屋市昭和通壹丁目拾七番地  
日本特殊陶業株式會社  
常務取締役 市邊 眞清

陸軍大臣 東條英機 殿

昭和拾五年九月廿七日附陸普第六八二八號ヲ以テ御許可相受候首題ノ件左記ノ通實施セシメ候條此段及御報告候也

左記

福山

軍務

一、參觀日時	昭和十五年十月十五日午前九時二〇分ヨリ午前十時五〇分迄
二、參觀者ノ國籍	中華民國

陸軍省 15.1028 1236 軍務課

10.27 臣





5. 除隊後ノ死亡者ニ在リテハ地方醫師ノ診斷證明書

一、死亡事由記載例 (但シ軍屬等ニ在リテハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

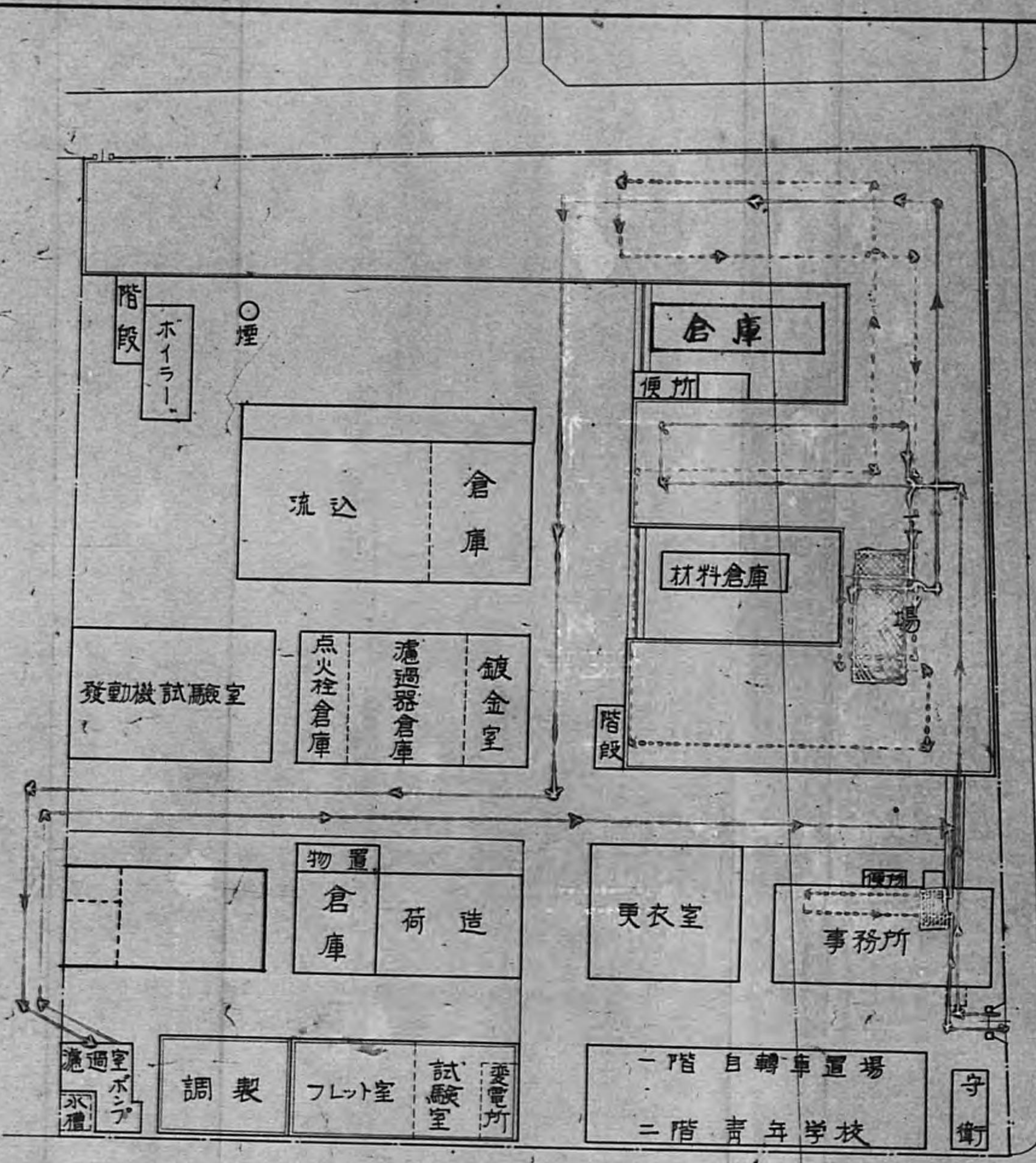
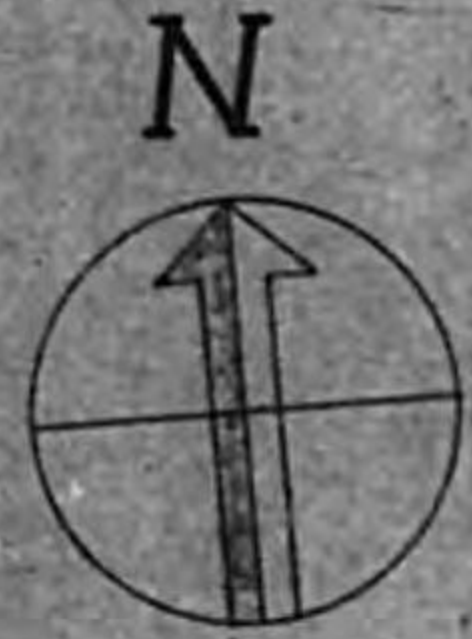
イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍

<p>四、案内者若ハ説明者ノ身分又ハ職業氏名</p>	<p>三、見學セシ工場名</p>	<p>參觀者ノ氏名身分又ハ職業 (但附添人)</p>	
<p>營業部 常務取締役 營業部 販賣係 製造部 第一係</p>	<p>添附圖面通り</p>	<p>名古屋市産業部觀光課 愛知縣廳觀光主任 シヤパン・ツーリスト・ビューロー中部支部 市橋 幸男</p>	<p>第 二 班</p> <p>中 校 華 樹 椿 蘇浙皖綏靖軍蘇州地區十一團附 常熱地區司令部副官長 馮 謙 嘉興地區第二團附 李 福 民 湖州地區司令部副官主任 楊 鵬 湖州地區第六團第二營々長 柳 百 忠 蘇州地區第三團第一營々長 少 校 桂 林 蘇州地區第十一團第二營々長 王 海 晏 南京地區金壇獨立小隊長 中 尉 江 宣</p>
<p>市邊眞清 藤本重夫 金谷英雄</p>		<p>今榮 武次郎 高川 謙二</p>	



# 日本特殊陶業株式會社建物配置圖

縮尺 五百分之一



名古屋陸軍造兵廠經由  
陸軍兵器本部經由

中華民國人當工場參觀實施狀況ノ件報告

名古屋陸軍造兵廠  
昭和十五年十月一日  
經由第五二號

名古屋市熱田區三本松町志丁目壹番地  
日本車輛製造株式會社  
常務取締役 岩垂捨三

陸軍大臣 東條英機 殿

昭和十五年九月二十七日陸普第六八二八號ヲ以テ御許可相受候首題ノ件左記ノ通實施セシメ候條此段及御報告候也

記

一 參觀日時	昭和十五年十月十五日午前十一時到着十一時十分ヨリ十一時五十分迄工場見學直チニ辭去ス
二 參觀者ノ國籍身分職業氏名	別紙
三 參觀セシ工場名	當社車輛工場
四 案内者ノ説明者ノ身分職業氏名	<p>附添人 名古屋商工會議所員 愛知縣商工課員</p> <p>工場案内者 當社技師 渡邊伍郎 同技手 金子廣見</p>

立會者身分 職業氏名	名古屋陸軍造兵廠 丹羽中尉 陸軍憲兵隊 築港憲兵分隊 溝口軍曹
六參觀者ノ着眼 及應答事項	着眼點ニ付テハ特記スル事ナシ 應接室ニ於テハ儀禮的挨拶ヲ交シタルノミ 但シ職工總數、年産額ニ付テノ質問アリタルモ一切之等ニハ 答辨セス
七感想	
八其他參考事項 特記スルコトナシ	

訪日視察團入員名錄

訪 團 長 蔭 軍 中 尉  
 副 團 長 蔭 軍 中 尉  
 同 行 蔭 軍 中 尉  
 觀 光 局 職 員

米 田 末 次 郎  
 新 井 磯 公  
 山 岡 清  
 浦 川 九 十 九

中華民國人	中華民國人	階 級	現 職
上 校	上 校	蔭 氏	
中 校	中 校	蔭 俊	
副 團 長	副 團 長	蔭 年	
副 團 長	副 團 長	蔭 蘇 州 地 區 總 隊 司 令 部 副 官 長	
副 團 長	副 團 長	蔭 蘇 州 地 區 總 隊 司 令 部 秘 書	

中華民國人	中華民國人	現 職	現 職
上 校	上 校	蔭 蘇 州 地 區 總 隊 司 令 部 副 官 長	
中 校	中 校	蔭 蘇 州 地 區 總 隊 司 令 部 秘 書	
副 團 長	副 團 長	蔭 蘇 州 地 區 總 隊 司 令 部 秘 書	
副 團 長	副 團 長	蔭 蘇 州 地 區 總 隊 司 令 部 秘 書	
副 團 長	副 團 長	蔭 蘇 州 地 區 總 隊 司 令 部 秘 書	

蘇州地區總隊司令部副官長  
 警備總隊附  
 總司令部軍區司令部  
 蘇州地區明光駐隊官長  
 蘇州地區劉府集駐隊總隊附  
 蘇州地區滄縣駐隊附



第六號

保存期限

三年

決裁指定

局長

執行指定

政務次官  
回付  
決裁前後連帶  
課名

拾年保

決行(決裁)後  
回覽課名

受番號  
壹第五一三一號  
外國人工場出入期間延長ノ件  
起元應(課)名  
東京芝浦電気株式会社

大臣

委

局長

次官

政務次官

主務課長

高級副官

參與官

主務課員

主務副官  
官房御用掛

書記官

審案  
筆記者

主務局長  
受領  
昭和拾伍年拾月廿八日  
提出  
昭和拾伍年拾月廿八日  
受領  
昭和拾伍年拾月廿八日  
了結  
昭和拾伍年拾月廿八日

機械部  
第一課

軍務  
防衛  
大臣

軍省  
15.10.25  
防衛課



陸軍副官ヨリ東京芝浦電気株式会社取締役副社長へ

通牒(兵器本部經由)

十月九日附昭十五度観美二七號願出ニ係ル首題ノ件許可セラレタルニ付承知相成度

追テ時局柄秘密保持ニ関シテハ特ニ留意セラレ度為念申添フ

陸普第七六一四號

昭和十五年十月二十六日

陸軍副官ヨリ憲兵司令部總務部長、海軍省副官へ通牒

昭和十五年二月廿三日附陸普第一二四六號ヲ以テ許可セラレタル東京芝浦電気株式会社工場敷地一部通行ノ件左記ノ通期間延長セラレタルニ付承知相成度

5. 除隊後ノ死亡者ニ在リテハ地方醫師ノ診斷證明書

一、死亡事由記載例

(但シ軍屬等ニ在リテハ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾賓ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾賓陸軍

陸軍

左記

自昭和十五年十月廿五日  
至昭和十六年六月廿四日

陸普第七六一四號

昭和十五年十月二十四日



東出經由

陸軍兵器本部殿經由

昭十五庶觀第一一七號

昭和十五年十月九日



正



本件差支ナキ意見

陸軍兵器本部

昭和十四年二月二日附回省第五九三號

人ニ對シ弊社子會社タル芝浦共

同工業株式會社ノ工場建設ニ當リ之ガ設備設計技術並各種工作法指導ノ爲昭和十五年

二月二十五日ヨリ同十五年十月二十四日マデ工場敷地ノ一部通行ノ件御許可相蒙リ候

處尙引續キ指導從事ニ付敷地通行ノ儀何卒御許可被下度此段奉願候也

記

一通行者ノ國籍

米 國

陸 軍	昭 和 十 五 年 十 月 九 日
兵器本部	經由第六〇九四號



東京市芝浦區芝浦電氣株式會社 銀座西五丁目貳番地壹

芝浦電氣株式會社



東出經由

陸軍兵器本部殿經由

昭十五庶觀第一一七號

昭和十五年十月九日



陸軍省 第五二二二號

陸軍	昭和十五年十月九日
兵器本部	經由第六二二四號



正

陸軍大臣 東條 英 機 殿

外國人工場敷地ノ一部ヲ通行ヒシメ度件願

昭和十四年二月二日附陸普第五九三號ヲ以テ左記外國人ニ對シ弊社子會社タル芝浦共同工業株式會社ノ工場建設ニ當リ之ガ設備設計技術並各種工作法指導ノ爲昭和十五年二月二十五日ヨリ同十五年十月二十四日マデ工場敷地ノ一部通行ノ件御許可相蒙リ候處尙引續キ指導從事ニ付敷地通行ノ儀何卒御許可被下度此段奉願候也

記

一、通行者ノ國籍 米 國

芝浦電氣株式會社



東京市芝浦區銀座西五丁目貳番地壹

1153 3501

Handwritten notes

Handwritten notes